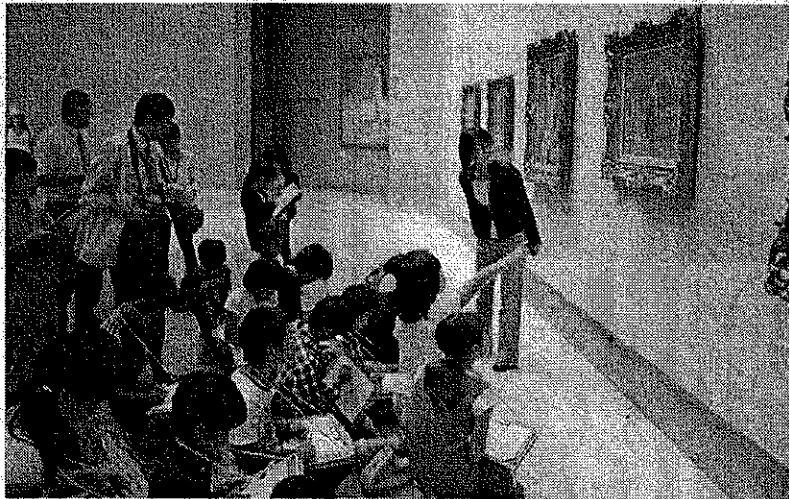


# STUDENT LIFE

週刊NY生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ



メトロポリタン美術館で名画を前に授業を受けるNJ日本人学校の児童生徒達。

NJ日本人学校

## 本物の芸術鑑賞授業

### メトロポリタン美術館で実施

【ニュージャーシー日本人学校(児童生徒数74人、横澤広美校長)は7月8日、東京都美術館学芸員の稲庭彩和子氏と美術出版社の高課(栗原祐司課長・元NY

国際交流ディレクター)の事業の一環として実現した。授業に参加した4年生から9年生までの児童生徒は、前日のアートの授業で、両氏からブレゼンティシオンやカードゲームを使って楽しく美術品の鑑賞について学習したばかり。子供たちはメトロポリタン美術館に到着すると足早にお目当ての絵画の前に急ぎ、ゴッホやモネなどの絵画を前にして感じたことを紙に書きつづけていった。「美しいとか上手とかいったほめ言葉だけでなく、感じたことをそのままメモしていくと、絵画に描かれているさまざまなことに気づくことができる」と教えられていた子供たちは、個性豊かな感性で感じたことを次々に言葉にしていった。これまでに同美術館を訪れたことがある子供たちも多いが、「こんなにじっくり見たことがなかった」「よく見るといろんなことが書いてあっておもしろい」などの感想をもらして

いた。ともすると、一つの作品に時間をかけず駆け足で見回ったり、作者の名前を読んでも作品の価値を感じたりすることも美術鑑賞ならではの、専門家が鑑賞方法を学んだ子供たちの目には、メトロポリタン美術館はさらに新鮮なものに映ったようだ。ここ数年、日本では博物館教育に関する関心が高まっており、大学における学芸員養成課程においても、来年度から新たに「博物館教育論」が必修科目となるという。文化庁でも、美術館・博物館での教育普及活動を活性化するため、新たに「ミュージアム・エデュケーション」の実施に向け、調査研究委員会を設けて検討を行っている。稲庭氏は同委員会において中心的役割を果たしており、今回、同校での実践授業のほか、ニューヨークでの美術館・博物館教育の実態調査を行うという。